



ULVAC REPORT

第117期 事業報告書

2020年7月1日～2021年6月30日

ULVAC

証券コード：6728

社会的課題の解決に貢献し、 持続的成長と高い収益性を実現していきます。

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、産業と科学の発展に貢献することを目指す。

経営方針

- 顧客満足増進
- 生産技術の革新
- 独創的な商品開発
- 自由闊達な組織
- 企業価値の向上

代表取締役社長

岩下 節生

2021年6月期の振り返り

各装置事業が受注を伸ばし、期初計画を上回る成果

2021年6月期は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が継続している影響や米中貿易摩擦も長期化している状況などにより、先行き不透明な状況が続きました。その中で、半導体業界においては、ファウンドリーやロジックメーカーによる先端投資の活発化やメモリ投資再開の動きが見られ、また、エレクトロニクス業界では、中国の国産化に向けた投資が活発化しました。加えて、フラットパネルディスプレイ (FPD) 業界においては、パネル需要の増加に伴い、液晶パネル投資が活発化するとともに、スマー

トフォン・タブレット向けの、有機EL (OLED) へのシフトに対応した投資が継続しました。また、タブレットやPC、医療用・車載用・ゲームといった広い用途に対応すべく、OLED用大型基板量産開発への取り組みも見られました。

当社グループの営業状況を振り返ると、半導体及び電子部品製造装置、FPD製造装置、コンポーネント、一般産業用装置、材料のいずれも受注高を伸ばし、FPD製造装置において、2022年6月期に想定していた案件を前倒しで受注したこともあり、受注高は前期比423億円増となりました。売上高は、前期にFPD製造装置の受注高が減少した影響で前期を下回りましたが、半導体及び電子部品製造装置、一般産業用装置、材料などが増加し、連結全体の売上高実績も期初計画を上回りました。

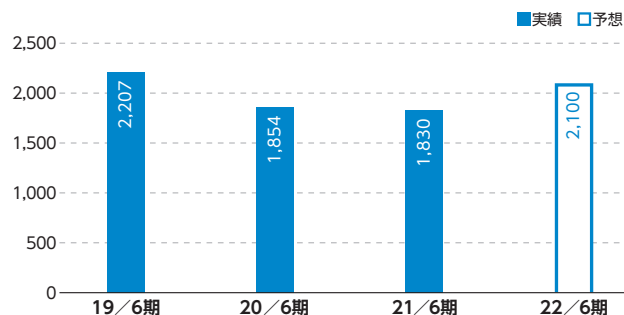
利益面においては、「モノづくり力強化」として進めている技術設計・購買体制・生産の各改革と情報システム基盤強化の取り組みが進んでおり、生産性向上、売上増加等により売上総利益率は前期の27.3%から29.4%に、営業利益率は8.6%から9.4%に改善しました。

以上の結果、当期の連結業績は期初の計画を上回り、受注高1,989億円(前期比27.0%増)、売上高1,830億円(同1.3%減)、営業利益172億円(同7.8%増)、経常利益180億円(同0.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益148億円(同37.7%増)となりました。財務基盤強化の取り組みも進み、自己資本比率は前期の54.6%から57.0%に、ROEは7.1%から9.2%となりました。

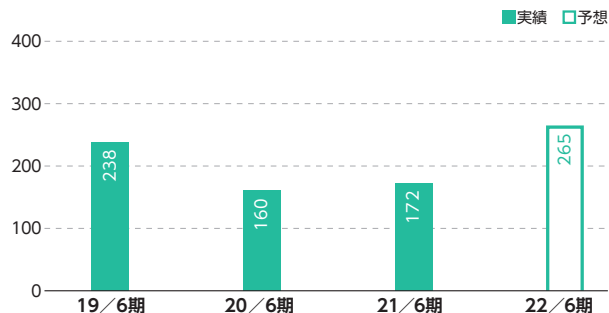
連結業績の推移 (単位: 億円)

	20/6期 実績	21/6期 実績	前期比
受注高	1,566	1,989	423 (27.0%)
売上高	1,854	1,830	△24 (△1.3%)
営業利益	160	172	12 (7.8%)
率	8.6%	9.4%	0.8pt
経常利益	181	180	△1 (△0.5%)
率	9.7%	9.8%	0.1pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	108	148	41 (37.7%)

売上高(連結) (単位: 億円)



営業利益(連結) (単位: 億円)



中期経営計画の目標を修正

中期経営計画「Breakthrough 2022」(2021年6月期～2023年6月期)は、「成長に向けた開発投資(選択と集中)」と「体質転換による利益重視の経営」を基本方針に掲げ、収益性および経営効率を高めつつ、スマート社会実現のための技術革新の潮流をビジネスチャンスと捉え、持続的成長と高い収益力の獲得を目指すものです。

本中期経営計画は当初、最終年度の2023年6月期連結業績における「売上高2,100億円」「売上総利益率35%以上」「営業利益340億円」「営業利益率16%以上」「ROE13%以上」「営業キャッシュ・フロー290億円」を目標に掲げていました。しかし、前述の通り、中期経営計画初年度の2021年6月期において半導体・エレクトロニクス・FPDなどの各業界での投資が想定以上に活発化しており、今後も投資拡大が続くと見込まれるため、このたび売上高と営業利益について目標数値を上方修正しました。

売上高については、半導体及び電子部品製造装置が成長をけん引し、FPD製造装置も好調が持続すると見込まれることから、2,350億円を新たな目標としました。また、事業成長の加速に向け、中期経営計画期間3年間の研究開発投資を、当初の500億円から650億円に増額した上で、営業利益380億円を目指す計画としました。

半導体業界は今後、先端ロジック・メモリとも積極的な投資が見込まれ、SEMI(Semiconductor Equipment and Materials

International;国際半導体製造装置材料協会)発表の半導体設備投資市場予測では、2022年の先端ロジック向け投資が2019年比1.9倍、メモリ向け投資が同1.5倍に増加すると見られています。当社グループは、この市場成長を上回る成長として、2023年6月期の半導体製造装置について、ロジック向けで2020年6月期の4.1倍、メモリ向けで同1.6倍の受注獲得を目指します。

エレクトロニクス業界は、パワーデバイスやオプトデバイス、通信デバイスなどの生産増強投資が日本および中国、台湾で活発化しています。当社グループは、2023年6月期の電子部品製造装置について、日本で2020年6月期の1.6倍、中国で同2.7倍、台湾で同2.1倍の受注獲得を目指します。特に中国は、政府の国産化政策を受けてパワーデバイスやAR/VR向けオプトデバイスなどの投資が急拡大し、当社グループの商談件数も大幅に増加しています。これらの需要を確実に取り込むべく技術営業力の強化に取り組んでいます。

FPD業界は、パネル需要の増加に伴い、大型LCDの投資が継続しており、さらにモバイル用や医療用・車載用などのITパネルのOLED化が進展し、OLEDの投資も拡大しています。当社グループはこの変化を踏まえ、2023年6月期のFPD製造装置について、2020年6月期の1.7倍の受注獲得を目指します。

同時に、これらの各装置事業と連携し、コンポーネントやマテリアル、カスタマーサポートの各事業も拡大することで、安定的なビジネス基盤を強化していきます。

研究開発投資については、特にロジック・メモリ関連の共同開発の増加や電子部品製造装置のモジュール化推進と中国対応、OLEDの大型基板化対応などへの集中的な投資を進めています。

また、引き続きモノづくり力強化に取り組み、利益率の改善にも努めてまいります。

当社グループは、こうした各々の取り組みを着実に実行し、中期経営計画の達成を確実なものとしてまいります。

2022年6月期の計画

「Breakthrough 2022」の2年目となる2022年6月期は、半導体及び電子部品、FPD関連の投資拡大が進展する中、受注高および売上高の増加を見込んでいます。営業利益率は、引き続きモノづくり改革を推進することで、さらに改善していきます。

2022年6月期の連結業績は、受注高2,300億円（当期比15.6%増）、売上高2,100億円（同14.7%増）、営業利益265億円（同54.1%増）、経常利益270億円（同50.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益180億円（同21.4%増）を計画しています。売上総利益率は、上場以来最高水準となる31.9%へ、営業利益率も12.6%へ改善させる計画です。

株主の皆様にお伝えしたいこと

当期の期末配当については、1株当たり95円（前期比15円増



配)とさせていただきます。今後の株主還元については、業績に連動した利益配分に移行し、連結配当性向30%以上を目途として還元を行っていく方針とし、2022年6月期の期末配当は、1株当たり110円（連結配当性向30.1%）を予定しています。

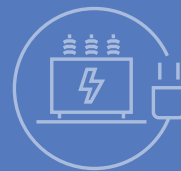
リモートワークの常態化、自動車のEV化、AIの活用拡大などに伴い、デジタルトランスフォーメーションやICT（情報通信技術）の活用の動きが加速しています。また、深刻化する地球環境問題への対応として、グローバルレベルでの脱炭素に向けた取り組みが必須ですが、グリーン社会の実現のためにも、半導体・電子デバイスの消費電力を低減するための技術革新が求められています。当社グループは、このように拡大する成長機会を的確に捉えながら、事業活動を通じて幅広いステークホルダーとともに産業と科学の発展や社会的課題の解決、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集

ULVACの市場と事業機会

自動車が「電動化」し「自動運転化」されネットワークへ「つながる」ために必要となる半導体、電子部品、パワーデバイス、フラットパネルディスプレイ(FPD)にはULVACの真空薄膜技術が活用されています。



ELECTRIC

電動化

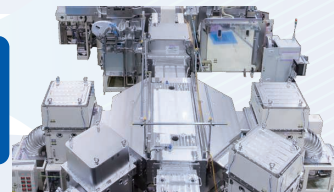
ビッグデータ時代の到来と省エネ・脱炭素化の流れの加速

あらゆるモノがネットワークにつながるIoTに加え、AIや5Gなどの普及で本格的なビッグデータ時代が到来しようとしています。また、世界では省エネ・脱炭素化への流れが加速し、EV（電気自動車）やハイブリッド車などの電動車の普及も進んでいます。

自動車が「電動化」し、「自動運転化」されネットワークへ「つながる」ためには、下図に示すようなさまざまな機能が必要になり、通信インフラやデータセンターなどとやりとりするデータの通信量が膨大になります。

これに伴い、大量で多様な半導体や電子部品、およびそれらの裏側で爆発的に増加する電力需要に対して省エネで貢献するパワーデバイスが必要になります。それと同時に、これらのデバイスには大容量・高速・低消費電力・高信頼性などさらなる高い性能が常に求められます。

また、FPDについても、AIの判断結果を可視化したり、車内で動画コンテンツなどのエンターテインメントを楽しむなど新しい用途での需要が広がり、高精細、低消費電力、大型化、薄型化やフレキシブル化などのさらなる高い性能が求められます。

FPD
製造装置電子部品
製造装置

EV(電気自動車)



AUTONOMOUS

自動運転化



CONNECTED

つながる



半導体
製造装置

ULVACの真空薄膜技術の活用

ULVACのコアとなる真空薄膜技術を利用すると、厚さ数 μm (マイクロメートル=千分の1ミリメートル)から数nm(ナノメートル=百万分の1ミリメートル)の極めて薄い膜を作ることができます。

こうした薄い膜は、材料を物理的に引き延ばして作るができないため、真空中で原子や分子などの状態にして積層するという高度な技術が必要です。

未来の自動車に必要な半導体、電子部品、パワーデバイス、FPDなどの高性能化を実現するには、真空薄膜技術が必要になります。

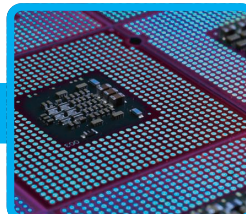
技術革新に伴い、真空薄膜技術を利用したULVACの半導体、電子部品、パワーデバイス、FPD向けの製造装置の需要も今後ますます高まっていくと予想され、真空技術で社会インフラの構築や省エネ・脱炭素などの社会・環境課題の解決に貢献してまいります。



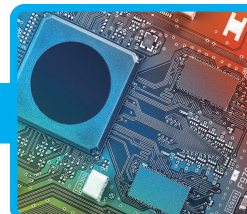
当社装置の市場



FPD



半導体



電子部品

最終用途の例



EV(電気自動車)



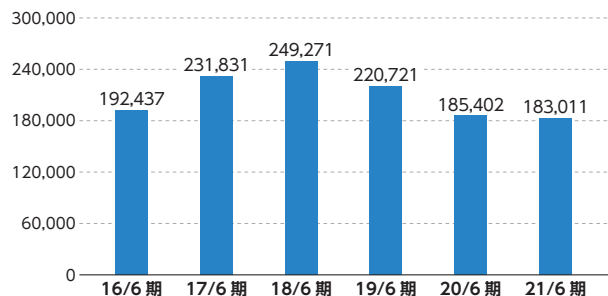
データサーバ



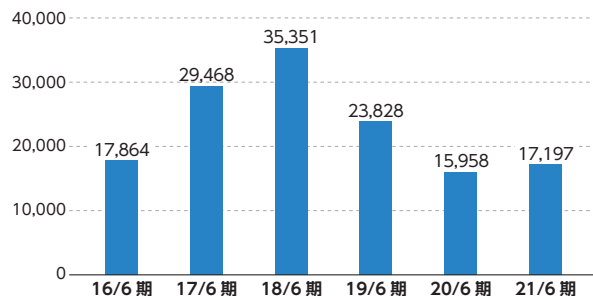
自動運転

決算ハイライト

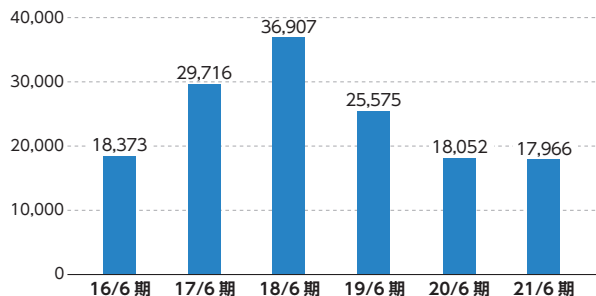
連結売上高 (単位: 百万円)



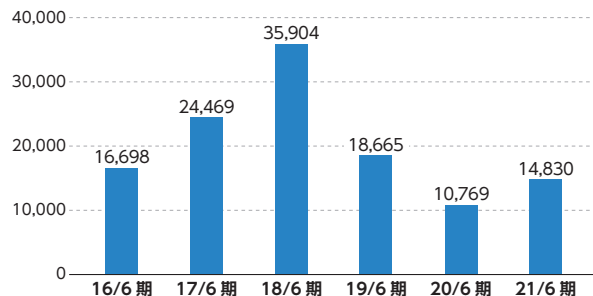
連結営業利益 (単位: 百万円)



連結経常利益 (単位: 百万円)

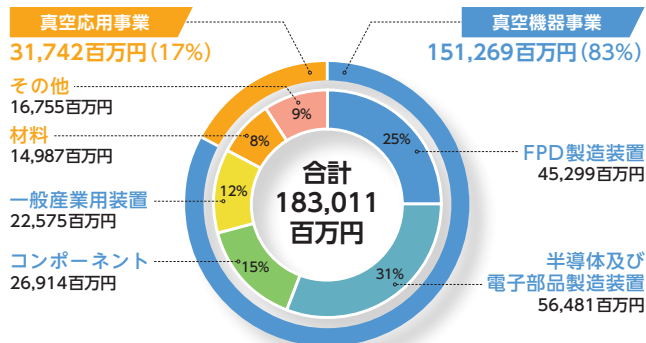


親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



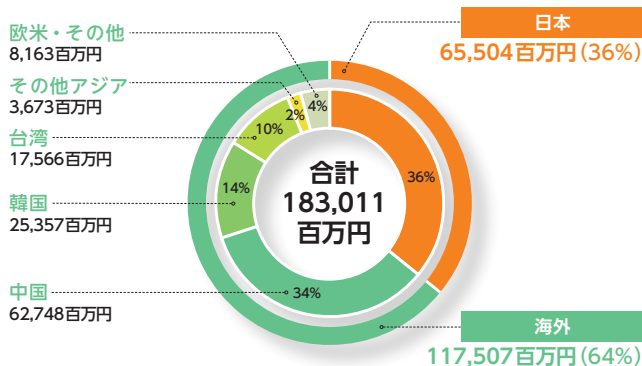
事業別売上高

(21年6月期)



地域別売上高

(21年6月期)



連結財務諸表

※記載金額は単位未満を四捨五入して表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2020年6月30日現在	当連結会計年度 2021年6月30日現在
資産の部		
流動資産	188,985	202,530
固定資産	93,365	90,231
有形固定資産	65,189	66,086
無形固定資産	3,278	3,496
投資その他の資産	24,898	20,649
資産合計	282,350	292,761
負債の部		
流動負債	72,285	77,819
固定負債	48,972	41,243
負債合計	121,256	119,062
純資産の部		
株主資本	151,007	162,015
その他の包括利益累計額	3,246	4,884
非支配株主持分	6,840	6,800
純資産合計	161,093	173,699
負債純資産合計	282,350	292,761

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2019年7月1日から 2020年6月30日まで	当連結会計年度 2020年7月1日から 2021年6月30日まで
売上高	185,402	183,011
売上原価	134,805	129,247
売上総利益	50,596	53,764
販売費及び一般管理費	34,638	36,567
営業利益	15,958	17,197
営業外収益	3,511	3,160
営業外費用	1,418	2,391
経常利益	18,052	17,966
特別利益	3,308	5,053
特別損失	239	1,460
税金等調整前当期純利益	21,122	21,559
法人税・住民税及び事業税	4,790	4,867
法人税等調整額	4,596	1,218
当期純利益	11,736	15,474
非支配株主に帰属する当期純利益	967	644
親会社株主に帰属する当期純利益	10,769	14,830

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2019年7月1日から2020年6月30日まで	当連結会計年度 2020年7月1日から2021年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,738	25,520
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,143	△6,925
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,455	△16,061
現金及び現金同等物に係る換算差額	39	2,468
現金及び現金同等物の増減額	22,089	5,002
現金及び現金同等物の期首残高	55,859	77,948
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	112
現金及び現金同等物の期末残高	77,948	83,061

単体財務諸表

※記載金額は単位未満を四捨五入して表示しております。

単体貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前事業年度 2020年6月30日現在	当事業年度 2021年6月30日現在
資産の部		
流動資産	124,368	124,491
固定資産	76,559	74,042
有形固定資産	37,908	38,290
無形固定資産	2,416	2,496
投資その他の資産	36,234	33,255
資産合計	200,927	198,532
負債の部		
流動負債	57,672	56,350
固定負債	35,429	28,477
長期借入金	34,827	27,567
その他	602	910
負債合計	93,101	84,827
純資産の部		
株主資本	102,549	111,586
評価・換算差額等	5,277	2,119
純資産合計	107,826	113,705
負債純資産合計	200,927	198,532

単体損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前事業年度 2019年7月1日から 2020年6月30日まで	当事業年度 2020年7月1日から 2021年6月30日まで
売上高	97,377	81,690
売上原価	76,434	60,200
売上総利益	20,944	21,490
販売費及び一般管理費	17,653	19,045
営業利益	3,290	2,445
営業外収益	10,417	9,196
営業外費用	1,274	1,548
経常利益	12,433	10,093
特別利益	3,261	5,033
特別損失	240	883
税引前当期純利益	15,454	14,243
法人税、住民税及び事業税	1,333	604
法人税等調整額	3,887	660
当期純利益	10,234	12,979

会社データ／株式の状況

会社概要 2021年6月30日現在

商号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	20,873,042,500円
従業員数	1,294名(連結6,063名)

役員 2021年9月29日現在

代表取締役社長	岩下 節生
取締役副社長	本吉 光
専務取締役	白 忠烈
取締役(社外)	西 啓介
取締役(社外)	内田 憲男
取締役(社外)	石田 耕三
取締役(社外)	中島 好美
監査役(常勤)	伊藤 誠
監査役(常勤)	矢作 充
監査役(社外)	浅田 千秋
監査役(社外)	宇都宮 功

常務執行役員	島田 鉄也
常務執行役員	青木 貞男
上席執行役員	佐藤 重光
上席執行役員	近藤 智保
執行役員	蔡 有哲
執行役員	曾 正明
執行役員	鄒 弘綱
執行役員	高橋 信次
執行役員	清水 康男
執行役員	山口 堅二
執行役員	申 周勲

株式の状況 2021年6月30日現在

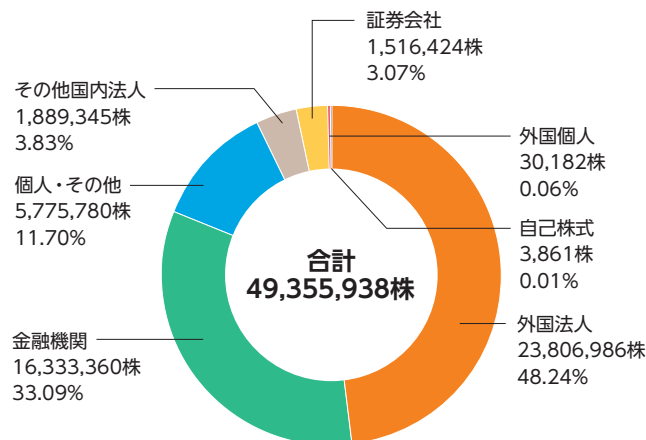
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	49,355,938株
株主数	12,791名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,431	6.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,280	6.65
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
TAIYO FUND,L.P.	2,838	5.75
TAIYO HANEI FUND,L.P.	1,644	3.33
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS-GLOBAL TECHNOLOGY POOL	1,330	2.70
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,171	2.37
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	1,121	2.27
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 381572	1,103	2.23
INDUS JAPAN LONG ONLY MASTER FUND, LTD	898	1.82

(注)持株比率は自己株式(3,861株)を控除して計算しております。

所有者別株式数



株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・休日を除く)

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求
ホームページアドレス
<https://www.smb.jp/personal/agency/>

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金のお受け取り方法について

配当金を配当金領収証でお受け取りの株主様には、確実に配当金をお受け取りいただける預金口座や証券会社の口座への振込みによる配当金のお受け取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。

IRカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
	第2四半期 決算発表			第3四半期 決算発表			通期 決算発表			第1四半期 決算発表		

定時株主総会



ウェブサイトのご案内

📍 企業情報はこちら <https://www.ulvac.co.jp/>



📍 IR情報はこちら <https://ir.ulvac.co.jp/ja/ir.html>



本事業報告書に記載されている当社の現在の計画・戦略及び予測については、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は様々な要因により本事業報告書の内容とは異なる可能性のあることをご承知おきください。

ULVAC 株式会社アルバック

本社・工場
〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
TEL.0467-89-2033

